

ぼむ・ぼむ通信

No.48

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ支援活動に積極的にご活用ください。



～ユニセフ ラブ・ウォークから～

ぼむ・ぼむ通信 48号

目次

ハイチ大地震 ユニセフ支援報告～確かな復興を目指して～	1
知っとこ。ユニセフ 「募金について」	4
世界の子ども達は今 『子どもの権利条約』 『子どもの権利条約』番外編	6
生協のユニセフ活動	8
* コープこうべ「ユニセフのつどい」 * コープとうきょう「2009年度ユニセフ募金贈呈式」	
* 秋田県生協連「あきたユニセフのつどい」 * 青森県生協連「2009年度ユニセフのつどい」	
* 京都生協「お年玉募金贈呈式」 * パルシステム神奈川ゆめコープ「ユニセフラオス学習会」	
トピック	12
* ユニセフ・ラブウォーク：中央大会、さいたまコープ、いばらきコープ	
* 2010年度 ユニセフ リーダー研修・交流会のご案内 * 2009年度ユニセフ募金集計報告	
* ユニセフ新事務局長が来日 ～生協の代表と歓談 * 中国青海省大地震への生協の取り組み	

ぼむぼむ通信 活用のすすめ

- ・ すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料として活用いただけます。
- ・ ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に、資料としてご活用いただけます。
- ・ 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・ 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- ・ 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでの使用をおすすめします。



ハイチ大地震

ユニセフ支援報告 ~ 確かな復興を目指して ~



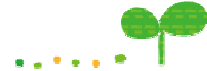
©UNICEF

1月12日に発生した大地震による被害の拡大を受け、ユニセフ本部（ニューヨーク）と世界36のユニセフ国内委員会（ユニセフ協会）は2004年末の「スマトラ沖地震・津波」による大災害時以来となる全世界一斉の緊急・復興支援募金キャンペーンを始めました。

そして地震発生から3ヶ月の節目を迎えた4月12日、ユニセフはハイチでのこれまでの人道支援活動を包括的に振り返る最新レポートを発表しましたのでお知らせします。そこには、前途に立ちほだかと思われる課題も提示されており、この国の未来のために、この国を良くしてゆくためにハイチの復興プロセスの中心に子どもたちを据えることの重要性を訴えています。



地震から90日 - ユニセフ、最新レポート



22万人以上が命を落とし、30万人以上の負傷者を出した大地震。被災者の総数は300万人以上にのぼり、首都ポルトープランス周辺では130万人以上がテント生活を余儀なくされました。

ハイチは人口の半数近くを子どもが占め、この地震で直接的な被害を受けた子どもは150万人近いと推定されることから、今回の地震は”子どもたちの緊急事態”と言われています。地震以前から、5歳未満児の30%は慢性的な栄養不良で13人に一人は5歳まで生きることができない状況であり、就学年齢時の55%は教育を受けられず、また毎年2,000人の子どもが人身売買の被害にあっていたハイチでは、大きな災害によって子どもたちがより厳しい状況に追い込まれたのです。

被害の中心が首都だったことで、政府の建物も倒壊し、ユニセフを含む国連の活動も大きなダメージを受けました。しかし、各国の政府や民間からの多大な支援によって、ユニセフは300人のスタッフを緊急支援のために派遣し、同時に、隣国ドミニカ共和国には、ハイチでの活動を支援する拠点を設置して支援物資の輸送や被災者への対応にあたるなど迅速な支援活動を展開することができました。

ユニセフは子どもたちの命を守るための水と衛生、栄養、保健、そして子どもたちの安全と日常生活を取り戻すための教育、暴力や搾取からの保護の分野で現在も支援活動を展開しています。



水と衛生

ユニセフの支援によって、被災者の 55% が飲料水を手に入れられるようになり、また 23 万人以上がトイレを使用できるようになりました。しかし従来から石鹼を使用した手洗いなどの衛生教育が普及していないハイチでは、4 月~5 月に始まるハリケーンシーズンの衛生環境の悪化が懸念されています。ユニセフは、さらに 4500 基のトイレ（45 万人対象）の設置、中・長期的な給水システムの構築と同時に病気を予防するために衛生教育支援も急いでいます。



栄養

23 ヶ所ある乳幼児テントのうち 19 ヶ所（2 万人の乳児、6,500 人の重度の急性栄養不良児、5 万人の妊産婦、166,000 人の 5 歳未満児が対象）がユニセフの栄養支援を受けています。現在のところ深刻な急性栄養不良の増加は報告されていませんが、これからの雨期に懸念されている下痢性の疾患や感染症は栄養不良を引き起こす要因ともなり、幼い子どもの命に直結することから、引き続き栄養支援を継続するほか、国の社会サービスとして栄養支援システムを確率するための政府支援などを行っていきます。



保健

ユニセフは 25 万人の子どもを対象にした麻疹と風疹の緊急予防接種を展開し、これまでに 10 万人以上が両ワクチンとビタミン A を接種しました。また 3 種混合などの予防接種キャンペーンも 2 月 2 日にはじまり、50 万人への実施を目指して現在も続けられています。さらに、マラリア感染を防ぐための殺虫処理済の蚊帳 40 万張り（20 万家庭分）の配布、保健施設への緊急の医療や出産に対応するための保健キットの配布等を実施しました。今後は 4 月末完了を目指して予防接種キャンペーンを加速させる一方、HIV に感染している妊婦や子どもたちへの治療の再開や母子感染予防を含めた保健システムの再構築等にもとりくみます。



©UNICEF



教育

今回の地震後、ハイチ全土で学校が一時閉鎖され、290 万人の子どもたちが影響を受けました。倒壊もしくは破壊的な被害を受けた学校は 4,226 校。ユニセフはこれまでに、教育活動の早期再開のための仮設教室用テント 1,400、スクール・イン・ア・ボックス（学習資材セット）850 セット、1,495 の幼児開発キット、2,226 のレクリエーション・キットを提供しました。学校は徐々に再開され、最も被害の大きかった地域でも、4 月より順次正式な学校教育が再開されていきます。ユニセフはこの学校再開に際しても、学習資材や給水およびトイレ施設などの支援を行っています。

学校の再建にあたり、災害に強く「子どもに優しい」学校の建設に向けて教育省を支援すると同時に、教員に対しての子どもたちへの心理社会的支援や子どもに優しい学習環境に関する研修、家庭の教育費負担を減らすためのシステム作りなども今後の優先事項です。



子どもの保護

地震後の混乱の中、多くの子どもたちが親を亡くしたり、家族と離れ離れになり、人身売買や暴力、搾取の危険に晒されました。こうした子どもたちの保護と支援のため、ユニセフは保護者のいない子どもの登録と再会支援、400ヶ所の子ども保護センターの調査、人身売買防止体制の強化などを行ってきました。また、78ヶ所の「子どもに優しい空間」では、一週間に55,000人の子どもが社会心理的サポートを受けています。

災害から時間が経てば経つほど家族との再会は困難になることから、ユニセフは子どもの登録と再会支援を一層強化し、特に危険の高い子どもたちを様々な搾取から守るための支援を続けています。

こうした活動の結果、現在のところ感染症の発生などの二次的な災害は報告されていません。しかしながら目の前にはこれから始まるハリケーンシーズンへの対策という緊急の課題があります。またその後の復興段階においてもユニセフはパートナーと共に、教育、栄養改善、子どもの保護の分野を中心に支援を継続していきます

重要なのはハイチを子どもにふさわしい国として立て直していく努力です。たとえば学校の再開にあたっては、地震以前から教育を受けられなかった子どもたちを含めすべてのハイチの子どもが学校に通えるようにする、そうしたより良いハイチへの復興に向けて、子どもや若者の声に耳を傾けながら子どもを中心に据えた復興を支援していきます。

なお、当緊急・復興支援に必要な資金を上回るご協力をいただいた場合、現在行われている他の緊急・復興支援に活用させていただくことがありますので、ご了承願います。

2010年4月12日

このレポートからハイチは今、再建と復興に向けてゆっくりと前に進んでいることがわかります。ユニセフは5年前に起きた「スマトラ島沖地震・津波」の教訓と、その後の社会の立て直しに注ぎ込んだ努力をハイチでも生かそうとしています。支援活動は最終的には確実に一つの目標に向かっていきます。それは、ハイチを「子どもにふさわしい場所」にするということです。

「ぼむぼむ通信」ではハイチの情報をこれからも伝えていきたいと思いますので引き続きハイチの子どもたちへの応援をお願いします。

ハイチ地震緊急・復興支援募金

ユニセフはハイチでの活動資金として1億7,275万7,000米ドル（日本円で約158億9,400万円）の支援を国際社会によびかけています。日本ユニセフ協会でも引き続き募金を受け付けておりますのであたたかいご支援よろしくお願いいたします。

郵便局（ゆうちょ銀行）振替口座：00190-5-31000

口座名義：財団法人 日本ユニセフ協会

通信欄に「ハイチ」とご明記ください。

* 送金手数料は免除されます。



知りたい? 知っここ。ユニセフ募金について ①

「ユニセフ募金にご協力おねがいしま～す。」「世界の子どもたちのためにご協力おねがいします」そう呼びかける募金活動。私たちの募金はどうな流れで届けられるの? どんなことに使われているの? なぜ 募金が必要なの? 協力したいけど募金にはどんな種類があるの? どんな方法があるの? などなど 今回から「知っここ。ユニセフ」は **募金**について いろいろお伝えしたいと思います。

なぜ 募金が必要なの?

ユニセフは、みなさんからよせられた募金で、世界の子どもたちの命と健康と未来を守るために活動している国連のきかんです。・・・ユニセフ手帳より

ユニセフ(国連児童基金)は国連の機関の1つです。ここで国連の大きな組織を説明するのはむずかしいのですが、「機関」という言い方のほかに「ファミリー」という表現もあります。国連ファミリーの一員です。ファミリーの中には当然 親がいたり 親の兄弟がいたり 子どもがいたり・・・その成り立ちと位置はさまざまです。

ユニセフは自分でプログラムと資金を調達する(国連機構図では「計画と基金」と呼ばれているグループ) 国連を親に例えると 自立した子どもなのです。

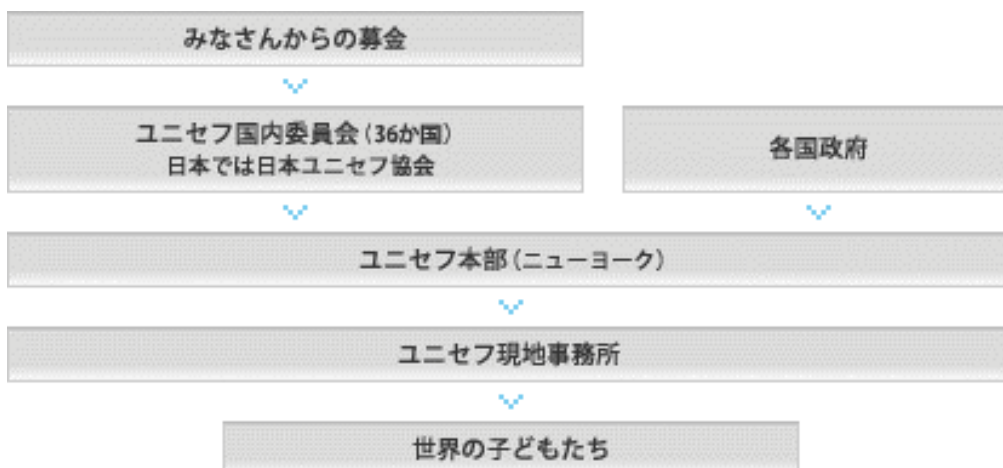
国連機構図は・・・

国際連合広報センターHP

<http://unic.or.jp/know/pdf/organize.pdf>

難しいことばを使えば「自発的拠出金」で活動しています。拠出とはある目的のために金品を出し合うこと(広辞苑より)ユニセフの場合は各国政府よりの拠出金と 民間からの拠出金・・・すなわち みなさんからの拠出金 **募金** によってささえられているのです。

ユニセフの活動は、100% 任意の拠出や寄付によって支えられています



ユニセフの歩みを ふりかえってみましょう。

	ユニセフの歩み
1946	第2次世界大戦（1939～1945）の後、戦争で被害を受けた子どもを助けるために国連の総会でユニセフ（United International Children's Emergency Fund:国際連合国際児童緊急基金）がつくられ、戦災国で支援活動が始める
1949	日本での支援活動が始まる（粉ミルクの支給など）
1953	国際連合児童基金（United Nations Children's Fund）と名を改め、活動の中心を開発途上国の子どもの長期的な支援に広げる
1955	（財）日本ユニセフ協会ができる
1959	国連で「児童の権利宣言」が採択される
1964	日本への支援活動が終わる
1965	ノーベル平和賞を受ける
1979	国際児童年、ユニセフへの理解と協力が広がる 生協での組織的な募金活動がスタート

1946年、国連総会の総意で設立されたユニセフ。総会は、ユニセフが UNRRA(ユニセフの前身となった組織で、戦争終了と共にその活動を終了した)からの資産を受け継ぐと同時に、政府からの任意の拠出金に加え、当時の国連機関としては例外的に、個人や団体などからの募金を受け取ることを認めました。それは逆に、そうした募金をしていただくために、個人の方々や団体などに「世界の子どもたちのニーズ」を訴える必要性が出てきたということでもあります。

ユニセフは、そうした民間からの募金を推進するために、1950年代よりヨーロッパを中心に、ユニセフ協会（国内委員会）の設立に取り組みました。1955年に設立された日本ユニセフ協会は、現在先進国を中心に36の国と地域で、それぞれの現地法に基づいて設置されているこうしたユニセフ協会（国内委員会）の一つです。

任意の資金に支えられているユニセフは、安定して子どもたちに支援を届けるために、常に「ユニセフ支援の輪」を維持し、広げてゆく努力をなくてはなりません。

（日本ユニセフ協会HPより）



なぜ 募金が必要なの・・・ご理解いただけたでしょうか？



世界の 子ども達は今

水と衛生

安全な水は命の基本!!

日本では、蛇口をひねるときれいな水が出てくるよね。
それが当たり前だと思っているでしょ？でもね、世界では、
5人に1人のこどもが汚れた水しか飲む事が出来ないんだよ



村から遠く離れた川まで水くみに・・・



にごってて、
きたない水だな～！
でも、この水を
飲むしかないんだ。
料理も洗濯も全部
この水を使うの。

トイレも無く、草むらで・・・



学校にトイレが無いと、
女の子は困るよな～。



◆安全な水が手に入らない。
◆衛生的な施設・環境が無い

病気になる

学校に行けない

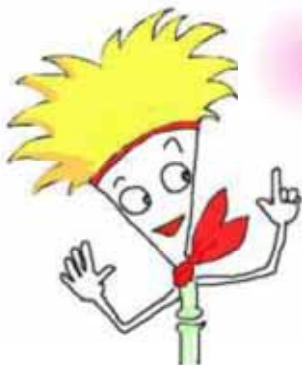
コレラ・下痢・肺炎など
の感染症や、水に関する
病気で毎日3,800人
もの子供が命を落として
いる。



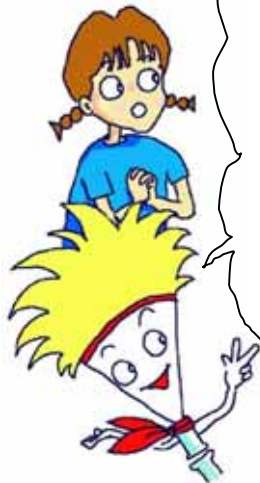
女の子は水くみや
家の仕事で、学校に
行く時間が無い。

往復2～3時間も
山道を歩いて来
たの・・・
重～い！

男女別のトイレ
が無い事も、女の
子が学校へ行き
にくい要因。



ユニセフは 2015 年までに、安全な水と基本的な衛生施設を手に入れられな
い人の割合を 1990 年の半分にする。すべての学校にトイレや手洗い場を整備
する・・・という目標達成に向けて活動が続けてるんだよ！
おかげで、だいぶ改善されてきたけど、まだまだ足りないんだ。
次回は、その活動をいろいろ調べてみようね！



「子どもの権利条約」が生まれてから 20 年!!
 前回まで 4 回にわたって取り組んできたけど、ちょうど今年
 の 3 月 26 日 (金) に、東京霞が関の外務省で
『児童の権利条約に関するシンポジウム』～今後の課題～
 という大きなイベントがあったんだよ! 外務省、ユニセフ、
 NGO、NPO、医師、弁護士、大学の先生などをパネリストに
 迎えてのシンポジウムだったんだ。
 今日はこのシンポジウムに参加された**生協組合員の西尾さん**
 に来て頂きました。

こんにちは! 私は第 2 部からの参加でしたが、特に
 印象に残った内容を報告しますね。

『児童の権利条約に関するシンポジウム』

～今後の課題～

- 第 1 部 「児童の権利の尊重・促進」
- 第 2 部 「児童の性的搾取からの保護」
- 第 3 部 「児童と武力紛争」



『児童の性的搾取からの保護』(日本の現実・・・)

子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議の後、2004 年、児童ポルノ・買春禁止法が制定された。
 しかし日本では、児童ポルノの単純所持、閲覧規制も無く、CG・マンガの供給側への規制も進歩が見られない。
 また近年乳幼児もその対象になっている。このような現状は会議において批判的になっている。
 一旦インターネット上あるいは書籍に掲載されると、それは生涯被害者を苦しめ続ける事になるが、被害者への
 ケアがなされていない。



これが日本の
 現実かぁ～!

えもはや

ある**企業**がユニセフや NGO、NPO などと連携して、法規
 制や人身売買根絶のための署名活動・資金援助・デモン
 ストレーションなどを行っているという報告があった
 の。



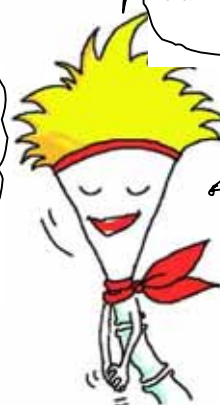
『児童と武力紛争』(ユニセフとその活動・・・)

紛争の前から、紛争中も、紛争後も、常に現場に居るのはユニセフである。
 経験豊かなスタッフが、政府や NGO などとパートナーシップを組んで効率のよい活動、地域に密着した活動を展
 開している。時には、子ども兵士を解放するために反政府ゲリラと交渉することもある。
 紛争終了後も、その国の国家予算を学校や子どもたちの為に使えるように交渉、活動を続けている。



未来を担う子供たちが元気になると、大人も元気に
 なり、コミュニティが元気を取り戻して復興してい
 くんですって。

私たちもユニセフ支援の募金や啓発活動
 をしていますが、現地の子どもたちが元
 気になっていく姿を見ながら、実は私た
 ちも元気をもらっているんですね。



西尾さんありがとうございました。

僕たちの募金がユニセフを支
 え、ユニセフが世界の「子ども
 たちの権利」を守るために
 活動しているんだね。



年度の終わりということもあり、県支部と各地の生協、企業、学校などが集まりユニセフのつどいや募金贈呈式が開催されました。



コープこうべ ユニセフのつどい



3月6日、生活文化センターで「ユニセフのつどい」が開かれました。

コープこうべは1982年からユニセフ募金に取り組み、2002年にできた日本ユニセフ協会兵庫県支部を支援しています。

「つどい」は、ユニセフ活動をしている人たちの交流の場として年1回開かれ、8年目を迎えた今年のテーマは、「世界のともしこころをつなごう～今わたしたちにできること」。地元企業や学校が、劇などを交えて日頃の活動を発表しました。また、地雷廃絶を訴える立命館大学学生の柴田知佐さんの講演では、質問が相次ぎ、来場者の関心を集めていました。

を交えて日頃の活動を発表しました。また、地雷廃絶を訴える立命館大学学生の柴田知佐さんの講演では、質問が相次ぎ、来場者の関心を集めていました。

なお、この会場で、コープこうべ組合員から寄せられた「ハイチ大地震緊急募金」23,381,810円を含む総額32,993,117円の募金目録が、浅田克己組合長理事から贈呈されました。

◇ 活動紹介

松蔭高校 Blue Earth Project 「TAP キャラバン」

神戸市立科学技術高校 「蝶のために絵を描く」 他者を思いやるためのデザイン

西宮苦楽園中学校 「募金活動」 アルミ缶から世界の子供たちへ

伊藤ハム株式会社 「タンザニア支援プロジェクト」 ザンジバルへの栄養支援 200

9年10月の視察から

2009 支部活動あれこれ

◇ 募金贈呈式

◇ 神戸市立住吉小学校合唱部

◇ 講演

「今の自分にできること ノーモア地雷」

柴田知佐さん（立命館大学4年生）

◇ 活動の現場から

「ユニセフと地雷」 出津正明さん





コープとうきょう 2009 年度ユニセフ募金贈呈式



4月15日、コープとうきょう新中野ビルにおいて、(財)日本ユニセフ協会団体・組織事業部長の千寿満城氏をお迎えして2009年度のユニセフ募金贈呈式を行いました。

募金活動への理解と共感を広げることを目指した今回の募金贈呈式には、地域で活動する組合員やコープとうきょう理事長・専務理事など

約50人が参加しました。

コープとうきょうでは、1980年代からユニセフ募金に取り組んでおり、店頭募金箱やコープデリ宅配の注文書で気軽に募金できるようになる中で、2009年度は、組合員からお預かりしたユニセフ募金が総額で約1,298万円となりました。



京都生協 お年玉募金贈呈式

3月13日、子どもを含め70名の参加でお年玉募金贈呈式を開催しました。今年は京都生協でのユニセフ活動がスタートして20年となる節目の年であり、「つなげよう!愛・笑顔・未来みんな地球人」をテーマに開催。組合員によるパネルシアターとラオスの紙芝居で開会し、参加した子どもたちから日本ユニセフ協会へ募金の目録が手渡されました。



2009年度のお年玉募金総額は459万4084円(3月13日現在)、集まった募金のうち300万円は「ラオス指定募金」として、残りは一般募金としてユニセフに送られます。続いて実際にラオスを訪問した5人の組合員によるリレートークが行なわれ、この間のラオスの変化や20年の活動への思いが語られました。

参加者からは「支援の様子やラオスの実態などがよくわかった」「みんなが集まり輪を広げることと素晴らしい支援につながっている」「小さい募金が生かされ継続されていることがすごいと思う」等の感想が寄せられるなど、あらためてユニセフ活動への共感が広がる場となりました。別会場では子どもを対象にした学習コーナーも設けられ、ビデオ学習や水汲み、ラオスの文字を書く体験などを行ないました。

午後からは京都府生活協同組合連合会との共催で、ビブラフォン奏者 玉木孝治さんによるコンサート「ビブラフォン・ドリーム21」が開催され、ビブラフォンの美しい音色に耳を傾けました。



秋田県生協連 あきたユニセフのつどい



秋田県生活協同組合連合会は、4月9日、「あきたユニセフのつどい」を開催しました。このつどいはユニセフ活動について学び・交流する場として例年この時期に開催しており、ユニセフ募金に取り組んでいる県内の会員生協より50名が参加しました。

大川会長から日本ユニセフ協会へ今年も目標額を上回る1,014,277円の募金の目録が手渡されました。

続いてネパールの学習会とワークショップを開催しました。ワークショップでは、今年は「水」をテーマに考えてみました。「今朝から自分はどのくらいの水を使ったか」「遠くまで行かなければ水が手に入らないとどんな問題があるか」など、テーマを決めて模造紙に書き込んでいきました。最後にグループごとに発表し、楽しみながらも改めて水の大切さと現地での環境整備の必要性を考える機会となりました。会場では現地で使われている水がめを手に持ち、「バランスを取るのが大変だ」という声も聞かれました。また、持ち寄られた手作りの小物などが販売され、収益が今年度のユニセフ募金として送金されることになりました。



青森県生協連 2009年度ユニセフのつどい

青森県生協連では、2010年2月5日、県内の6生協の組合員・役職員など56名の参加のもと、「2009年度ユニセフのつどい」を開催しました。つどいには、日本ユニセフ協会の「生協のユニセフ活動への期待」の講演、日本生協連から「生協のユニセフ活動」の報告、グループ討論などを行い、最後に日本ユニセフ協会へ「ネパール指定募金(目録約160万円)」を贈呈し、感謝状をいただきました。

グループ討議「私たちにできるユニセフ活動」では、「生協の特性に合わせた宣伝の工夫(店舗・院所・バス等)」、「生協の諸企画毎に募金箱を設置」、「県連牛乳でミルク募金を実施してはどうか」、「とにかく知ってもらうことが大事」、「ハンドインハンドを夏に実施できないか」といった意見が出されました。

コープあおもりの有志による手作りクッキー販売、コーヒー販売、コープあおもりユニセフ部会によるカレンダー販売などを行い、この収益(17,250円)をユニセフ募金にしました。





1月29日、新横浜本部において、「ユニセフ ラオス学習会」を開催し、13名が参加しました。

4年目を迎えた、ラオス指定募金の取り組み
パルシステム神奈川ゆめコープでは、2006年から日本ユニセフ協会神奈川県支部の「人身売買からラオスの子どもたちを守る」指定募金に取り組んでいます。今年度も募金に取り組むにあたり、現在のラオスの状況や人身売買の実態、また指定募金の意味と募金がどのように使われているかを学ぼう、と学習会が開かれました。



人身売買の被害にあう子どもたちを守るために

まず、昨年ラオス・スタディツアーに参加したユニセフスタッフから、ラオスでの保健・水と衛生・教育・子どもの保護・HIV/エイズ分野でのユニセフ活動報告があり、つづいて神奈川県支部スタッフから「人身売買からラオスの子どもたちを守る」プロジェクトの中間報告がありました。ラオスは国土の70%が山間部で村には働く場が少なく、都市部や隣国のタイに出稼ぎに出て人身売買の被害にあう危険が高いとのことで、子どもや若者向けにビデオやアニメを使った啓発活動をすすめているそうです。また被害者の身元確認や救済の取り組み、職業訓練による社会復帰のプログラムなども報告されました。

学習会の様子

日本にいとアジアの人身売買の問題を身近に感じることはむずかしいですが、現地に行ったスタッフの報告や質問を通じて、理解が深まった学習会になりました。参加者からも「現地での報告や体験を聞けてとてもためになりました。カンパが、どの位集まってどのように使われているか、納得できました」との感想が寄せられました。



満開の桜の下 世界の子どもたちのために 740 人がウォーキング



毎日私たちは、「あたりまえ」のように清潔で安全な水を使っています。しかし、世界では、8 億 6000 万人以上の人々が、汚れた水しか飲むことができません。トイレを使えない人は、26 億人にものぼります。

思い思いのペースで歩いた汗が、ユニセフを通じて開発途上国の子どもたちの健康に役立てられるユニセフ・ラブウォーク。1965 年にイギリスで、1982 年に日本でスタートしたこのチャリティイベントの中央大会が、4 日（日）東京都の港区・目黒区・品川区をまたぐ城南地域で開催されました。

満開の桜の下

「水と衛生」問題をテーマにした今年の中央大会に用意されたのは、「池田山公園」や「目黒川」、「品川海上公園」、「八つ山公園」など、城南の水と桜の名所をつなぐコース。ベビーカーに乗った赤ちゃんからお年寄りまで、昨年を上回る 740 名あまりの方々が、丁度満開を迎えたばかりの桜を街のあちこちで愛でながら、6 キロと 12 キロの道のりを無事完歩されました。



© 日本ユニセフ協会

「最後の方できつくなったら、スースーハーハーって、意識して呼吸をリズム良くね！」とスタート前参加者に呼びかけてくださったのは、メキシコ、ミュンヘン、モントリオールと連続3回のオリンピックマラソン日本代表 宇佐美彰朗さん。



© 日本ユニセフ協会

飛び入り参加された元 F1 ドライバーの中野信治さん（写真中央）とミュージシャンの高橋康子さん（写真左）も、12 キロコースを完歩されました！（写真右は日本ユニセフ協会の早水研専務理事）

チャリティ・ウォーカーへの協賛

6 キロ&12 キロを歩き抜いた参加者を待っていたのは、数々の記念品。今年も大会主旨にご賛同いただいた 42 社・団体より、数多くの記念品をご提供いただきました。ありがとうございました！



ラブウォーク さいたまコープ

さいたまコープの組合員組織と（財）日本ユニセフ協会埼玉県支部が共催の「ユニセフ・ラブウォーク」が、県内3地区でおこなわれました。この取り組みでは、運動好きな方など普段の企画に参加されない層の方々も来られるので、ユニセフ活動を広げる新たな機会になっています。

「ユニセフ・ラブウォーク in 草加宿」(3月29日)

さいたまコープ東南地区エリア会とくらぶライスクッキー、(財)日本ユニセフ協会埼玉県支部と共催。草加の町並みを、途中咲き始めた桜の花を眺めながら、約6キロメートルと約9キロメートルの2つのコースに分かれ歩きました。参加者からは、「多くの方々とふれあうことができ、毎回楽しく参加しています」などの感想が寄せられました。

「ユニセフ・ラブウォーク in 富士見」(4月4日)

さいたまコープ西部地区エリア会と(財)日本ユニセフ協会埼玉県支部と共催。富士見市内を、途中満開の桜を楽しみながら約4キロメートル歩きました。参加者からは、「市内のウォーキングスポットを知ることができて良かった」などの感想が寄せられました。

「ユニセフ・ラブウォーク in 長瀬」(4月29日)

さいたまコープ北部地区エリア会と（財）日本ユニセフ協会埼玉県支部が共催。長瀬の景勝地など約5キロメートルのコースを歩きました。参加者からは、「さいたまコープがユニセフを応援していることを始めて知りました。来年も家族で参加したい」などの感想が寄せられました。

この3日間に子ども48人を含む274人が参加、64,470円の募金をお預かりしました。



ラブウォーク いばらきコープ

4月29日に日本ユニセフ協会茨城県支部設立準備委員会の主催で、いばらきコープも協力し「2010ユニセフ・ラブウォーク in 水戸」を開催しました。

ゴールデンウィークの初日、天候にも恵まれ62人の参加者が、八重桜やチューリップなどの花を楽しみながら千波湖1周3キロメートルのコースを歩きました。4カ所のチェックポイントでは、ユニセフが行っている支援や、世界で今も問題となっている地雷の被害などについて学びました。

また、会場警備のボランティアとして有限会社つばさネットワークの皆さんが参加し、事故も無く安全に実施できました。参加費の一部29,800円を募金として、ユニセフに送りました。





2010年度 ユニセフ リーダー研修・交流会のご案内



今年度もユニセフリーダー研修・交流会を開催します。全国の生協でユニセフ活動に取り組んでいる方を対象に、ユニセフの活動と世界の子どもの状況への理解の促進と、それぞれのユニセフ活動の取り組み経験を交流して、各生協での募金や学習活動などをさらに発展させていくことを目指しています。



日程、会場

東京会場：2010年8月23日（月）～8月24日（火）1泊2日

ユニセフハウス（東京都港区高輪4-6-12 品川駅徒歩10分）

京都会場：2010年8月26日（木）～8月27日（金）1泊2日

コープイン京都（京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル井筒屋町411 地下鉄四条駅徒歩5分、阪急烏丸駅徒歩5分）

プログラム内容（予定）

初日		2日目	
13:00	受付	9:00	・アイスブレイク ・生協の協力活動事例報告 ・ワークショップ
13:30	・アイスブレイク ・生協協会／日本生協連からのおはなし ・ユニセフ理解ワークショップ		
15:15	休憩	12:30	昼食
15:30	・ユニセフ現地報告 （現地日本人スタッフ） ・質疑応答	13:20	・アイスブレイク ・生協の学習会実践報告 ・グループ交流／ワークショップ
18:00	夕食交流会	15:00	終了 ユニセフハウス展示見学（東京会場／希望者のみ）
20:00	終了		

参加費

宿泊有の場合：1人あたり 6,000円（税込）

宿泊無の場合：1人あたり 2,000円（税込）（近隣の方は通いでのご参加をお願い致します）

昨年度参加者の声

- ・ 他生協の方といろいろ交流することで活動の違いなど知ることができました。ユニセフについても改めて学習することができ良かったです。
- ・ 現地で活動してきた人の話は生々しくてわかりやすかった。
- ・ ゲーム形式のワークショップはとてもよく考えられていました。帰ったら是非やってみたいです。

お問合せ

日本生活協同組合連合会 組合員活動部 TEL 03 - 5778 - 8124
（財）日本ユニセフ協会 団体・組織事業部 TEL 03 - 5789 - 2012

2009 年度ユニセフ募金集計報告

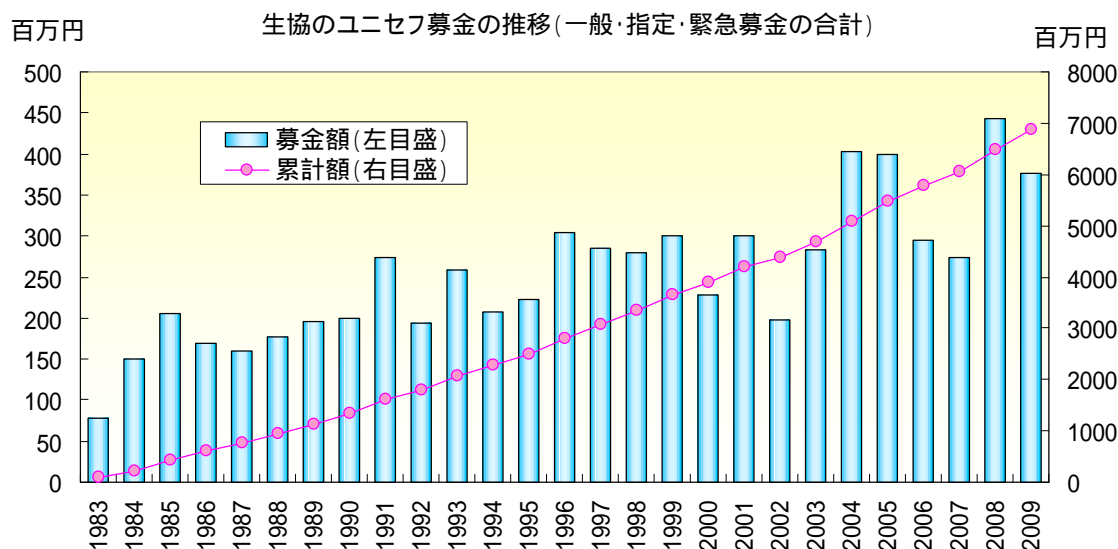
累計で 68 億円を超えました。ご協力ありがとうございました。

2009 年度の全国の生協が組合員に協力を呼びかけて集約されたユニセフ募金は、一般募金、緊急募金、指定募金の単年度総額では 3 億 7 千 7 百万円となりました。

2009 年度の一般募金は、1 億 5 千 4 百万円（前年比約 102%）でした。指定募金は、関西、中四国、九州、東北等地域ごとに取り組まれているラオスやネパールへの募金などで 7 千 2 百万円（前年比約 60%）、緊急募金は、ハイチ地震やフィリピン・サモア・スマトラ自然災害募金などで 1 億 5 千万円（前年比約 87%）が寄せられました。その結果、全国の生協の募金額集計を開始した 1983 年からの累計募金総額は、68 億 6 千 4 百万円となりました。ご協力ありがとうございました。

(単位:円)

募金種別	2009年度募金	2008年度募金
一般募金計	154,490,333	151,033,775
指定募金計	72,036,093	119,275,703
指定募金		
ネパール地域開発生協	15,842,404	16,964,185
ラオス女性	16,505,071	19,483,002
ラオス子ども保護	11,156,591	12,506,926
モザンビーク栄養	22,597,500	24,103,241
マラウイ教育	5,000,000	5,287,545
HIV/AIDS グローバルキャンペーン	934,527	920,938
カンボジア水と衛生	0	40,000,000
バングラデシュ教育	0	9,866
緊急募金計	150,283,956	172,223,113
緊急募金		
フィリピン台風緊急	17,920,499	0
スマトラ沖地震緊急	18,482,156	0
サモア地震津波緊急	14,051,369	0
ハイチ地震緊急募金	91,609,234	0
パキスタン人道支援	4,157,119	0
スマトラ沖地震津波	69,834	0
アフリカ緊急募金	7,298	720,512
ガザ人道支援緊急募金	1,718,458	6,838,187
ミャンマーサイクロン	614,100	111,364,773
自然災害緊急募金	1,653,889	65,201
バングラ・サイクロン	0	3,333,952
中国大地震	0	49,848,388
ペルー地震緊急 07	0	52,100
総合計(+ +)	376,810,382	442,532,591





ユニセフ新事務局長が来日 ～ 生協の代表と歓談



2010年5月12日、国連大学ビルにて、ユニセフ新事務局長のアンソニー・レーク氏来日イベントが開催され、生協をはじめとするパートナー団体や支援者、ボランティアの代表が招待されました。

生協からは、佐藤利昭 さいたまコープ理事長、小田川和恵 ちばコープ理事、山下俊史 日本生協連会長が出席しました。

レーク事務局長は、2010年5月1日に事務局長に就任したばかりで、民間としては世界最大の支援国である日本を訪問し、日本政府および支援団体への敬意を表しました。

このイベントには、黒柳徹子 ユニセフ親善大使やアグネス・チャン日本ユニセフ協会大使も出席し、レーク事務局長を歓迎しました。



左より 小田川和恵 ちばコープ理事、アンソニー・レーク ユニセフ事務局長、
東郷良尚 日本ユニセフ協会副会長、佐藤利昭 さいたまコープ理事長、
山下俊史 日本生協連会長



中国青海省大地震への生協の取り組み



2010年4月14日午前7時49分（日本時間同8時49分）中国西部の青海省でマグニチュード7.1の地震が発生しました。

各地の生協では、生協店舗や宅配の注文用紙を通じた被災地支援募金の呼びかけや、基金からの義援金贈呈などの取り組みが行われています。

生協名	店舗	宅配	その他の募金方法	募金先
コープさっぽろ	4/26～5/31	5/17～21 一口100円		ユニセフ
いばらきコープ	4/22～5/20	4/26～5/21 一口100円または1,000円		日本赤十字社
とちぎコープ	4/24～5/20	4/26～5/21 一口100円または1,000円		日本赤十字社

コープぐんま	4/28～5/20	4/27～5/21 一口 100 円または 1,000 円		
ちばコープ	4/22～5/20	4/26～5/21 一口 100 円または 1,000 円		日本赤十字社
さいたまコープ	4/21～5/20	4/26～5/21 一口 100 円または 1,000 円	社会貢献基金から災害 義援金として 50 万円を 送金	日本赤十字社
ユーアイコープ		5/10～6/18 一口 300 円		
コープとうきょう	4/21～5/20	4/26～5/21 一口 100 円または 1,000 円		日本赤十字社
パルシステム東京			ADRA Japan へ 30 万円 振込み HP、WITHYOU にて日本 赤十字社、ADRA Japan の口座を案内	日本赤十字社、ADRA Japan
東京都生協連			組織カンパとして日本赤 十字社に 5 万円を送金	日本赤十字社
コープながの	4/26～5/20	4/21～5/21 一口 100 円または 1,000 円		日本赤十字社
コープにいがた		～5 月 4 回 一口 100 円または 1,000 円		
コープかながわ	5/5～25	5/17～21 一口 100 円または 1,000 円		ユニセフ
パルシステム神 奈川ゆめコープ		5/24～6/11 一口 300 円		ユニセフ、日本 赤十字社
全日本海員生協		5/17～23 一口 100 円または 1,000 円		ユニセフ
市民生協やまな し	5/5～25	5/17～21 一口 100 円または 1,000 円		ユニセフ
コープしずおか	5/5～25	5/17～21 一口 100 円または 1,000 円		ユニセフ
コープいしかわ	～5/20	5/6～6 月末		ユニセフ
コープあいち		一口 100 円		ユニセフまた は日本赤十字 社
コープぎふ	5/3～5/22	5/3～5/22 一口 100 円または 1,000 円		ユニセフ
コープみえ	4/26～5/21	5/3～21 一口 100 円		ユニセフ
コープしが		一口 100 円	20 万円をユニセフに送 金	ユニセフ
ならコープ	～4/30	5 月 3 回～6 月 1 回 一口 100 円		ユニセフ、日本 赤十字社
京都生協			HP 等でユニセフの口座 を案内	ユニセフ
鳥取県生協		5/17～28		日本赤十字社

コープやまぐち	5/1～31	5/10～28 一口 100 円	虹の助け合い基金から 30 万円をユニセフへ送金(5月6日予定)	宅配と店舗で集まった緊急募金は 7 割をユニセフへ募金し、3 割を虹の助け合い基金に積立
コープえひめ	4/26～5/31	6月1回、2回 一口 100 円	総代会議 - 5月20日～28までの21会場に募金箱 5月30日(日)までの組合員参加行事(田植え・創業祭など)の会場に募金箱	ユニセフ
ララコープ	5/3～21	5/10～21		ユニセフ
コープみやざき	4/17～5/21	5月3回、4回 一口 100 円		日本赤十字社

ぼむぼむ広場

編集後記

ひさしぶりの編集後記です。はじめて書いたのは13年前?! ささやかながらこうしてぼむぼむの原稿作りで ユニセフを応援できたことはうれしいです。ユニセフは私にとって世界を感じる窓口。世界の出来事がひとごとではなく響いてきます。 山本直子

とにかく動くモノには噛みつく。我が家の居候フェレットは凶暴である。しつけの本を読みあさり実行するも、いっこうに改善の兆しが無い。彼女の外出中(家の中)は、椅子の上に足をあげて緊急避難。この状態で原稿に向かう。それでも憎めない顔をしている。梅雨に入り、もうすぐ彼女と私の敵、恐怖の暑～い夏がやってくる。



ユニセフ*コープネットワーク

ぼむぼむ通信

No.48 2010年6月15日発行

編集 **グループ ぼむ・ぼむ**

スタッフ・編集 / 相澤・尾澤・谷杉・浜崎・福本・
藤森・松本・山本・谷口・朝倉

イラスト / 蛸沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 ユ・プ・ラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>

ぼむぼむ通信第48号をお届けします。

今回は、ハイチ大地震へのユニセフ支援の報告や、「しっとこユニセフ」、「世界の子どもたちは今」では新シリーズがはじまりました。全国の生協では、つどいや学習会、ラブウォークなどに取り組みました。また、2009年度の全国の生協のユニセフ募金集計がまとまりました。

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をお待ちしております。

次号は、2010年9月15日発行予定です。